

TAC 司法試験講座

「2012～2013 年入学目標 法科大学院コース春開講 無料公開セミナー」

新カリキュラム始動！

「法科大学院上位校・既修者コース攻略カリキュラムはこれだ！」レジュメ

法曹を目指す皆さんへ…

これから法曹を目指すなら、まずは法科大学院・上位校既修者コースに入学することをお薦めします！

なぜなら…

新司法試験合格率データを見てもわかるように、新司法試験に1回で合格するためには、法科大学院上位校・既修者コースに入学することが必須条件だからです。

(2012・2013 年上位校入学のための総合講座案内 P14～16 参照)

I コースの特長

★法科大学院上位校・既修者コース合格だけに的を絞ったコース

「既修者本科生」と「既修者本科生Ⅱ」の2コースを精選

「既修者本科生」(2012 年入学目標)

- ① 春から始めて、1 年間の学習で法科大学院既修者コースの入学するためのオールインワンコース
- ② 大学新3・4 年生向け

「既修者本科生Ⅱ」(2013 年入学目標)

- ① 2年間の学習で、法科大学院既修者コース入学に万全を期すフル装備コース
- ② 大学新2年生向け

★論文作成力(アウトプット力)養成に重点を置いたカリキュラム

「法律総合講座」～「法律総合答練」のサイクル学習で論文作成力を身に付ける。

Ⅱ カリキュラム・講義内容・勉強のポイント（法律科目）

「法律総合講座」

法科大学院既修者コース入試対策に必要な法律基本科目につき、知識の習得（インプット）だけでなく、アウトプット訓練も含めた効率的なカリキュラムになっています。

繰り返し学習により効果・実力を高めていく、「サイクル学習法」を複合的に導入し、学習効率のアップと論文作成力の向上を実現します。

【サイクル学習法 その①】

『法律入門講義』→『基礎講義』→『応用講義』の3段階に分け、繰り返し学習することで、効果的な知識の定着を図る。

「法律入門講義」（全4回） 法学入門・憲法・民法・刑法各1回

<内容>

入門テキスト（無料配付の教材）を配付し、それを元に講義を行います。
法律の基本概念を学んでいただきます。

「基礎講義」（全96回） 7科目

<内容>

初めて法律科目を学ぶ方を対象に、基本論点や典型論点を中心に講義を行います。
偶数回には、講義の後半30分で演習を実施。（基本的な論文問題中心の演習です。）

それまでの講義で学習した知識の確認と早期のアウトプット訓練を行います。

「応用講義」（全14回） 憲法・民法・刑法3科目

<内容>

「基礎講義」で学習した内容を踏まえ、さらに応用的な論点まで踏み込んだ講義を行います。演習は応用講義でも偶数回に実施します。

憲法・民法・刑法の上3法については、受験者のレベルも高く、法科大学院の出題レベルも高いため、応用講義ではこの3法についてのみ重点的に講義を行います。

<演習について>

【サイクル学習法 その②】

基礎講義・応用講義で2回に1回のペースで偶数回実施する演習は、後日添削

をしてお戻しします。(添削は通学・教室講座のみ)

最初は書けなくて当たり前ですので、テキストなどを見ながらでも、とにかくまず書いてみるのが大事です。実際に書いてみることで、講義で学んだ知識を整理し、理解の定着度を確認してください。また、この書くトレーニングが、次の「法律総合答練」の基礎となっていきます。

講義を受けてわかったつもりでいても、いざ答案を書こうとすると書けないということがわかると思います。初めの頃はそれが当然なので、焦る必要はありません。

<テキストについて>

「法律総合講座」では、テキストとして「デバイス・ネオ」(別売り)を使います。「デバイス・ネオ」は、新司法試験対策としても対応しうる情報(最新判例など)を盛り込んで作成しています。講義では、法科大学院入試に必要な情報だけをピックアップ・アップして進めていきます。

法科大学院入試に必要な情報⇒法科大学院での学習で得た情報⇒新司法試験に必要な情報へと、皆さんの知識の習熟に合わせて進化するテキストとなります。

勉強のポイント

①復習が大事！

「法律総合講座」では予習は不要です。その代わりの時間を復習にかけた方が知識の定着につながります。

②情報はテキストに一元化する！

「法律総合講座」で学習した内容については、別にノートを作るのではなく、テキスト＝「デバイス・ネオ」に書き込みをし、情報を一元化するようにしてください。

「法律総合答練」

9月からスタートする「法律総合答練」は、「法律総合講座」で獲得した知識の復習の場であり、演習でトレーニングしてきた論文作成力を本試験レベルまで向上させるリハーサルとなります。

【サイクル学習法 その③】

「論文作成メソッド講義」＋「基礎答練」と「応用答練」の2段階で実施されます。答練は2時間で2問の論文答案を作成していただきます。答案作成後は90

分間の解説講義を実施します。

「論文作成メソッド講義」(全1回)

＜内容＞

法律論文は他の論文と違い、科目によって論文の書き方も異なっています。

「論文作成メソッド講義」では、各科目により異なる法律論文作成法や論文作成の際の考え方について学んでいただきます。

「基礎答練」(全26回) 7科目

＜内容＞

「法律総合講座」基礎講義が終了した科目から順次「基礎答練」が始まります。

「基礎答練」では、事前に出題範囲をお知らせし、基礎講義で学習した範囲内の基本的な問題・典型問題を出題します。

基礎講義＋基礎演習で身に付けた知識＋基本的なアウトプット力を持って、法科大学院の過去問でも問われているような基本的な問題に対応し得るかを実際に「書く」ことにより確認し、次のステップにつなげていただきます。

「応用答練」(全21回) 7科目

＜内容＞

法科大学院入試の予想問題とも言えるより本試験レベルの実践的な問題を出題します。

出題範囲の指定はありません。本試験レベルの問題でシミュレーションを行っていただき、論文作成力を本試験に対応し得る実践レベルに引き上げます。

答練の重要性と有効な活用法

法科大学院既修者入試では、法律論文が必須となっています。

上位校既修者コースの場合、適性試験のスコアも重要で、ハイスコアが求められますが、法律論文試験の占めるウェイトも大きく、論文試験の出来によっては、他の受験生に差をつけることも可能です。

論文試験で合格レベルの答案を書くためには、答練は必須です。

論文作成力は、実際に答案を書く訓練を繰り返すことによってしか身に付きません。答案を書く⇒解説講義を聞いて論文作成のポイントを確認⇒添削答案を見て、自分の弱点を確認⇒復習 という流れで論文作成力を確実に身につけることができます。